

温暖化、食害などから

ふるさとの緑守ろう



オンコの幹にネットを巻く参加者

森の恵み感

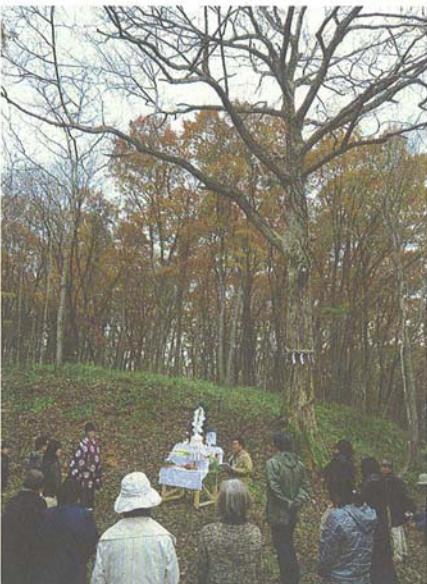
苦小牧、安平でイベント

苦小牧市や安平町で、7の両日、森の環境を守り、触れ合うイベントが相次いだ。エゾシカの食害から樹木をする活動や、温暖化対策の植樹などが行われ、枯れ葉散る晩秋の林の中で人々は、恵みの森林を後世につなぐ大きさを体験した。

苦小牧市植苗の屋外庭園施設・イコロの森で6日、植樹イベントが催された。参加者はアカエゾマツの苗木110本を森の中に植え、緑の大切さをアピールした。

植樹イベントは、NPOとして企画した。マツの苗木110本を森の中に植え、緑の大切さをアピールした。

札幌市などから親子連れなど37人が参加。カラマツの伐採跡地で、スコップを手にアカエゾマツの苗木を次々に植えた。苗木は30年から50年ほどで、高さ25㍍ほどの大木に成長する。親子で参加した札幌市の根子蓮太郎君(7歳)は「木を植えるのは面白い。大きな木になるとのが今から楽しみです」と笑顔を見せていた。



シンボルツリーを祭る神事も

安平でこじろの森フォーラム

住民参加で里山造り 森の癒やし効果体感

人の体や心を元気にする森林の働きを体感する「こじろの森フォーラム」(同実行委員会主催)が6日、安平町遠浅の大島山林で開かれた。大島山林(約70㌶)は、昨年から地元町内会の有志やNPO法人苦東環境

フォーラムには地元や

苦小牧などから約50人が参加。枯れ葉が舞う静か

な晩秋の山林を散策し、森の癒やし効果を体感した。

コモンズが協働し、森林の保育活動を行っている場所。住民参加の里山造りが注目されている。

6日、安平町遠浅の大島山林で開かれた。

大島山林(約70㌶)は、昨年から地元町内会の有

志やNPO法人苦東環境

フォーラムには地元や

苦小牧などから約50人が

参加。枯れ葉が舞う静か

な晩秋の山林を散策し、森の癒やし効果を体感した。

フォーラムには地元や

苦小牧などから約50人が

参加。枯れ葉が舞う静か

な晩秋の山林を散策し、森の癒やし効果を体感した。



苗木を植える参加者

北大苦小牧研究林で市民の集い エゾシカから守ろう オンコに防止ネット

北大苦小牧研究林で7日、「古里オンコの森」をエゾシカの食害から守る市民の集いが開かれた。後世に残そうと取り組んだ。

参加者は約200本のオノコの幹にプラスチック製のネットを巻き、森を守るために作業に汗を流した。苦小牧や札幌などから約1・2㍍の古里オンコが参加し、木の幹に食害防止ネットを巻き付ける作業に汗を流した。

80人が参加し、木の幹に食害防止ネットを巻き付ける作業に汗を流した。会場のオンコの森で、古里さんを紹介するプレーの除幕式の後、

食害対策の作業を開始。

市の中を見守つてほしい

力による食害が多発。古里さんの遺志と森を守る森となつた。

しかし、近年、エゾシカの食害が増加している。元林長の石城謙吉さん

がイベントを企画した。

子供の想像力を豊かに

し、心や体をほぐす森

の力について話し、自

然の中で遊べる環境の確

保などの必要性を力説し

た。